



ヨコハマ市民まち普請事業

第1次整備提案書

※ 記入上の注意

- ①3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。
- ②3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。
- ③位置図及び現況写真以外に、整備提案のイメージ図などの資料をA4判2ページまで添付することができます。その際、資料の両側に15mm以上余白を確保してください。

整備提案名 (25字以内)	コミュニティ拠点居場所カフェの整備
提案グループ名 (25字以内)	warm place & サードプレイス
グループの現在の主な活動内容及び最近5年以内の活動実績	鶴見区内で「孤立した子育て・ひとりぼっちの子どもをなくす」ことを目的に4年前から活動を実施している。 未就学児のママが子連れで参加できるワークショップの運営。地域密着型の親子イベントの実施。発達障害の子育てをしている親のピアカウンセリング。 子どもたちの生活圏にアクセスのしやすい居場所づくり。子育て中の親や子どものサポート活動をしている実践者への研修会の実施。地域住民向けシンポジウムの実施。
整備場所の所在地 (町名又は丁目まで記入)	鶴見区鶴見中央4丁目 ※位置図及び現況写真（各A4判1ページ）を添付してください。
整備提案の内容 (どのような整備を提案するのか文章で記入してください)	鶴見駅東口にある空き物件の1階を借り、以下の整備を行う。 ・居場所や集いの場となるカフェができるオープンキッチン、カフェスペース ・発達障害の子育てなどでフルタイムでの就労が困難なママのためのワーキングスペース、ミーティングルームの整備 ・おむつ替えスペース ・授乳スペース ・キッズスペース ・多機能トイレ 整備費用の概算額：約500万円 ※添付資料として整備提案のイメージ図を添付することができます。（記入上の注意③）
整備提案の動機や背景 (整備に対する地域のニーズや整備によって解決したい地域の課題、整備の必要性などに触れながら箇条書きで記入してください)	・鶴見駅周辺の2か所で企業の協力を受け、店舗の一角を使用し子育て中の母親を対象としたワークショップを月40回開催し、年間8,000人の参加がある。参加者の増加や講師の増加に伴い、参加者への対応、打ち合わせ場所の確保、開催場所の確保が希望のとおりにならなくなってきている。 ・「孤立した子育てを防ぐ」ことを目的にしながら、ワークショップに参加を希望するママを定員で落選させてしまうことに抵抗がある。鶴見駅東口周辺は子連れで使えるスペースも少ないためにワークショップもできる拠点を整備したい。 ・育児や子育てについてちょっと聞きたいことがあるが、行政や子育て拠点に行くまでではないと思ってしまう。発達に課題を感じる子どものことを相談に乗ってくれる身近な人がほしい。という声をよく聞く。 ・鶴見駅東口周辺には子どもたちが集える場所（地区センターなどの公共の施設）がない。 ・発達障害の子の子育てなどによりフルタイムで就労することが難しい。短時間で働ける場やワークショップができる場が必要。
整備の効果	・ママが1人でも立ち寄りやすい場を作り、孤立した育児環境を改善する。 ・「相談してください」と掲げているところに実際に相談に行くのはとても勇気

<p>(整備したい施設がどのような人たちに利用され、地域にどのように貢献すると考えますか?)</p>	<p>のいることでハードルが高い。カフェという入り口にすることで、お茶を飲みに入ってスタッフと話し、日常の悩みや抱えているモヤモヤを出せるようにする工夫ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 子どもの発達に不安があるママに対し、専門家とは違う視点をもつ経験者ママからのアプローチにより、寄り添いながらサポートができる。 • 学校や家庭に居場所のない子どもたちがいる。そういった子どもたちが放課後の時間などに気軽に立ち寄れる身近な場があることが、子どもにとって心の余裕につながる。 • 発達障害の子育てなどでフルタイムでの就労が困難なママたちにとって、活動拠点が增多することで社会との接点を増やすことができ、子どもの2人きりの閉塞された状況によるリスクの増加などを回避することができ、気分転換をして自分の生きがいになることができる。
<p>整備した施設の維持管理・運営 (整備した施設の維持管理や運営に、提案グループや地域住民等がどのようにかかわっていきますか?)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 居場所カフェ運営については、時間を3つに区分する。午前～15時：親子のつどいの時間。16～19時：子ども・若者の活動の時間。19～22時：高校生以上の居場所と就労の場所。 • それぞれの時間帯で、warm place・サードプレイスが運営を担当する。 • カフェ：ランチ営業(従業員を雇用して、シフト制で運営) • 当初は提案メンバーで清掃などにはあたるが、先々は近隣の作業所や就労支援事業所、ユースプラザなどと提携し、就労支援の現場として清掃などを業務として経験してもらえるようにしていく。
<p>○提案内容におけるアイデアやユニークさ ○提案を実現するために活用する地域の資源 注4) ○その他提案について特にPRしたい点</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 人が集う場を演出することによって、新たな社会課題への対応についてのアイデアやアプローチが生まれる場所にあることができる。 • 活用する地域の資源としては「人」。様々なスキルや背景を持った人たちが関わることで、利用する人たちの多様性にも応えていくことが可能である。 • 人々が集う居場所を「カフェ」というスタイルで作ること。従来型のコミュニティカフェよりもコンテンツで人を惹きつけ、参加しやすい演出が可能。より多く幅の広い層へのアプローチができると考えている。 • 場所を時間でシェアすることで、子育て世代・子ども・中高生の居場所を1か所で実践することができる。 • 床や備え付けの棚、カウンターなどに水源地の間伐材の使用を検討している。居場所カフェに来ることで、横浜の水源地について考える機会を創出できる。例えば、福島で作られた電気を横浜で使っていることはほとんどの人が知らなかった。水源地で守られている水も同じように多くの人知らない。居場所カフェそのものが子どもたちにとっての教育の場にもなる。

注4)「地域の資源」とは、次のようなものを想定しています。

- | | | |
|---------|--------------------------|------------------------|
| ○「ヒト」の例 | • 地域のPTAから協力を受けられそう。 | • 地域に設計の専門家がいる。 |
| ○「モノ」の例 | • 整備に必要な材料を安く入手できそう。 | • 整備に必要な建設機械を安く借りられそう。 |
| ○「カネ」の例 | • 自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 | • バザーなどで資金を集められそう。 |

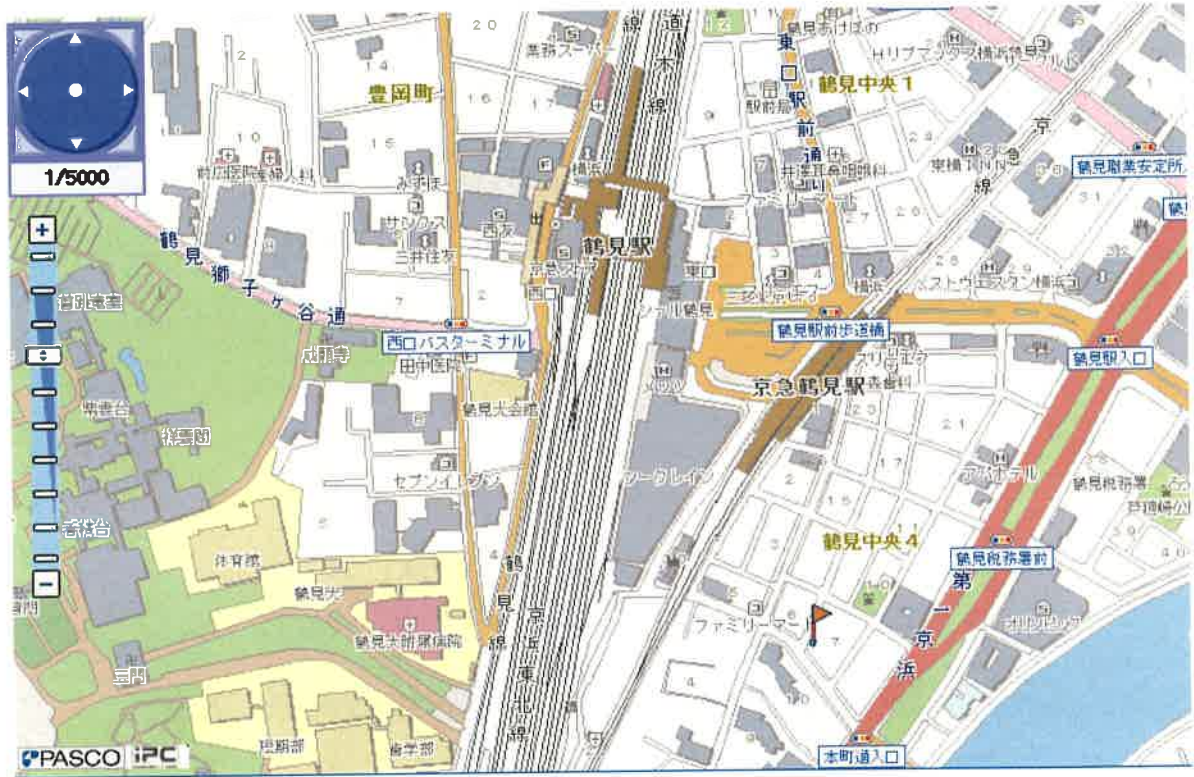
整備場所の地権者等注5)への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
株式会社木曾屋(地権者、建物所有者)	この地域に子育て・子どもの居場所の必要性を感じている。なんとか実現したい。

注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者(会社や行政機関も含む)

記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。

【位置図】



【現況写真】



【現状の図面】



【改修後イメージ図】

